

# みょうが

## ○みょうが栽培について

### 〈根茎腐敗病防除について〉

- ・葉鞘や根茎が侵され、地上部は枯死する。多湿条件では病斑部に薄い白色綿毛状のかびを生じます。
- ・土壌病害で、7月上旬以降に高温・多雨条件が続くと多発する可能性があります。
- ・防除薬剤は、リドミル粒剤やユニフォーム粒剤は収穫30

日前のため、8月に収穫するほ場では使用できませんが、9月以降収穫する場合でリドミル粒剤やユニフォーム粒剤を1回使用した場合のみ、使用できます。

- ・薬剤使用量は、リドミル粒剤 (20kg/10a) 又はユニフォーム粒剤 (18kg/10a) どちらかを散布して下さい。また、リドミル粒剤やユニフォーム粒剤が使用できない場合には、ランマンフロアブル500倍又はオラクル顆粒水和剤2,000倍を3ℓ/m<sup>2</sup> (3,000ℓ/10a) 使用して下さい。

# 山うど

## ○山うど栽培について

- ・倒伏軽減のため、茎長80~100cmで摘芯しましょう。
- ・本葉12~15枚時 (お盆頃)、頂部に花蕾ができた頃が摘芯適期であるが、それ以前に倒伏する危険がある場合は早めに摘芯しましょう。

### 〈排水対策について〉

- ・うどは湿害に弱いため、排水不良の圃場では明渠を掘るなどの対策を図りましょう。

## 〈病虫害防除について〉

- ・アブラムシ類、カミキリムシ、メイガの発生を確認し、多発する場合には薬剤で防除しましょう。
- スミチオン乳剤1,000倍 (アブラムシ、センノカミキリ、ウドノメイガ)
- カルホス粉剤6kg/10a (センノカミキリ)
- アドマイヤーフロアブル2,000倍 (アブラムシ類)

### 品種特性

- 紫芽の白：花蕾形成が早い **【摘芯時期の目安】** 7月下旬~8月中旬
- 群豊白：わき芽の生育が旺盛 **【8月上旬~中旬】**
- 東武鯉玉：秋芽が発生しにくい **【7月下旬~8月中旬】**
- 愛知坊主：風に揺すられると秋芽になる **【8月上旬~中旬】**

# 農機具情報

## あい さい こ **愛妻庫** 冷える米びつ 白米計量保冷庫

お米の酸化を抑えて、お米の美味しさを保ちます。

**KSX-15 収納量15kg**  
幅300×高さ625×奥行546mm  
45,800円(税込)

**KSX-31 収納量31kg**  
幅300×高さ890×奥行546mm  
49,300円(税込)



KSX-31

ご相談やお問い合わせは、

能代農機センター 58-3949  
二ツ井・藤里農機センター 73-5022

# 今年も実践湛水管理！

安全な秋田米を作るために



## 湛水管理のポイント

- その1 6月下旬から中干しを開始し、強い中干しは避ける！
- その2 ぬかりやすく秋作業が大事な水田では中干しの際に、溝切りを実施！
- その3 出穂前後各3週間は常時水を張り、田面に空気を触れさせない！湛水は遅めに8月下旬から！

基準値を超えた米は、湛水管理の実施を条件として限りが購入・処理を行います。

### ～汚染米が連続発生すると～

汚染米が連続発生した場合、県の買入価格が減額となります。

- 2年連続発生………通常買入価格の1/2の価格
  - 3年以上連続発生………通常買入価格の1/3の価格
- (例) 通常買入価格が、5,100円/30kgの場合 (2年連続発生………2,550円/30kg  
3年連続発生………1,700円/30kg)

※出戻の際は、一俵の標準別名、150俵(30kg)以下で出戻しします。

お問い合わせ先 JAあきた白神 営農企画課 ☎55-0777 まで